

令和7年度 出雲養護学校 学校評価報告書

①校訓	あかるい子 なかのよい子 たくましい子	重点テーマ 「いいね is you」 ～みつけよう ふやそう みんなのいいね
②めざす児童生徒像 (グラデュエーションポリシー)	地域で生きる人になる	
③高等部 求める生徒像 (アドミッション・ポリシー)	自分の可能性を切り開くことに意欲がもてる生徒	
④学びの方向性 (カリキュラム・ポリシー)	○地域で生きる力の育成 ・様々な学習や生活の中で活用できる知識の獲得 ・獲得した知識を活用して課題を解決する力 ・自己理解を深め、困難に負けず主体的に取り組む力 ・12年間を見通したキャリア教育の推進	
⑤学校の役割 (スクールミッション)	○出雲圏域の特別支援教育の拠点 ・特別支援教育の専門性向上 ・センター的機能の充実 ・切れ目のない支援のための連携 ・特別支援教育を担う人材の育成	

評価 A：達成できている B：ほぼ達成できている C：あまり達成できていない D：全く達成できていない

学部 分掌等	評価計画				目標値に対する実績 (%・回)	自己評価		学校関係者評価	
	重点目標	具体的方策	評価指標	目標値		評価 ABCD	○課題 ●次年度への改善策等		評価 ABCD
小学部	児童一人ひとりが自分のよさや持っている力を発揮できるような授業づくりを推進する。 #みつけよう ふやそう みんなのいいね #探究的な学びの推進と授業実践	探究シートを活用し、本時又は単元の中で、個の学びと集団の学びで目指す児童の姿や授業内容、支援方法を検討する。	・小学部教員を対象としたアンケートの回答「できた」「概ねできた」の割合 ＊『探究シートを活用した授業づくりの検討を通して、児童のよさや持っている力を引き出すことができたか。』	85%以上	95%	A	○今年度の成果（児童のよさを活かす授業、個や集団の学びのための手立て等）を次年度に引き継ぐためのシステムづくり。 ●グループ会や学年会で授業について話し合う際に、児童のよさを活かす視点を取り入れたり、個や集団の学びのための手立てと照らし合わせて検討したりする。（略案の様式の工夫等）	A	・児童個人や集団を伸ばす取り組みを工夫していた。学年の枠を超え一貫した教育に取り組んでいた。
中学部	地域と連携した取組を通して、生徒の学びを深めたり、学んだことを活かしたりすることができるような授業づくりを推進する。 #地域で生きる力の育成 #みつけよう ふやそう みんなのいいね	地域と連携した取組の中で、各教科等の学習や生活単元学習、総合的な学習の時間を関連付けた単元計画や授業づくりについて検討し、実践後に振り返りをする。	・各教科等を関連付けた授業づくりについての検討会や振り返りを、学年会や学部研究等で5回以上実施する。	年間5回以上実施	100%	A	○生徒の実態を踏まえた探究的な学びの検討 ●総合的な学習の時間の全体計画を活用して、生徒の実態に応じた題材を設定する。 ●生徒個々の探究的な学びや、探究的な学びを引き出す授業づくりについて話し合う機会を設ける。	A	・生徒の将来を見据え、地域との関りを意識し各教科横断的に取り組み総合的な学習の時間を活かしていた。
高等部	仲間や地域との関わりを通して、互いのよさを見つけたり活かしたりしながら学びを深められるような、探究的な学びを推進する。 #探究的な学びの推進と授業実践 #みつけよう ふやそう みんなのいいね	総合的な探究の時間を中心に、互いのよさを見つけたり活かしたりしながら学びを深められるような授業づくりについてグループで検討し、打ち合わせや情報共有を行う。	・高等部教員を対象としたアンケートの回答「できた」「概ねできた」の割合 ＊『毎回、短時間でも授業に向けた打ち合わせや生徒の様子を共有しながらの振り返りを行い、「持続可能な探究シート」にまとめることができたか。』	達成率80%以上	70%	B	○打ち合わせや情報共有の時間の確保 ○総探の年間のゴールや学習計画の把握のしにくさ ●短時間でも隙間時間を利用したり、チャット等を活用したりするなど、情報共有の仕方を工夫していく。 ●総探の3年間の見通しと年間計画を随時確認・共有していきたい。	A	・社会への出口である高等部ではより地域を意識し、探究的な視点を持ち取り組んでいた。また教員間でも連携し授業に生かす試みに取り組んでいた。 ・今年度も総合的な探究の時間に関わらせていただいた。これは私自身の探究でもあり、生徒さんそれぞれの学習のプロセスから多くの学びをいただいた。生徒さんたちの新たな発見への喜びはもちろん、チームとして探究テーマを絞ることの難しさや、想定外の展開でゴールの再設定を余儀なくされること、また探究の中で生じる答えの出ないジレンマなどを含めての探究であると、再認識した。だからこそ先生方も、導き・伴走にご苦労されたのだと思う。自己評価はその結果と受け止めている。
肢体不自由グループ	地域の方との学習で、子ども達の力を引き出すための情報共有や連携を図り、やりたい気持ちを表現する力をさらに深めていけるような授業づくりを目指す。 #探究的な学びの推進と授業実践	授業実践のアイデアを得るため、各クラスの取り組みの方向性や具体的実践について情報共有を行ったり、中間評価を行ったりする。	・肢体グループ会で学期に1回ずつ情報共有の会を設定する。	年間3回	100%	A	○校内外のつながりや、つながりを生かした授業実践を、今後の実践に役立てていけるようにグループ内でまとめを行う。	A	・児童生徒の状況を共有し地域等とのつながりを意識した授業づくりに取り組んでいた。
大田分教室	地域の人と関わる取組を通して、自分や地域の良さを感じられる授業づくりを推進する。 #地域で生きる人になる #地域との連携 #みんなのいいね	地域の人と継続して関わる授業づくりを行い、持続可能な取組につながるよう、生活単元学習や総合的な学習の時間を中心に単元計画を整理する。	・大田分教室教員を対象としたアンケートの回答「できた」「概ねできた」の割合 ＊『地域を活かした授業が持続可能な取組になるよう、単元計画を整理することができたか。』	80%以上	90%	A	○身近な地域の人と継続して関わることで良いい。 ●より効果的な関わり方ができるよう、大田分独自で作成した『持続可能な探究的な学びの一覧表』を参考に単元を計画する。	A	・地域の人と関わる取り組みから将来を見据えた一貫した授業づくりに取り組んでいた。
遼摩分教室	地域の人と一緒に考え、行動する機会を設定し、持続可能な地域とのかわり方について検討する。 #地域と共に、地域のために	実施方法や必要性等について、実施後に振り返り、検討・整理する。	・遼摩分教室教員を対象としたアンケートの回答「できた」「概ねできた」の割合 ＊『交流活動や地域と連携した学習が整理・検討できたか。』	80%以上	100%	A	○遼摩高校と連携した学習の中で、ねらいや育てたい姿が不明確になったり、共通理解が不十分だったりする学習があった。 ●担当者間の話し合いで、より目的や有効な支援等を確認、共通理解し、1年間の学習が効果的につながっていくように年間計画に組み込んでいく。	A	・将来を見据え地域と関わる学校づくり・授業づくりに取り組んでいた。遼摩高校と連携した学習にも取り組まれ振り返りにより来年度の計画に生かそうとしていた。

雲南分教室	地域や学校での探究的な学びの中で、他者とかかわりながら自分や社会の様々な課題に気づき、解決していくとすると生徒を育成する。 #WITH～地域と共に #地域のために #自分の可能性を切り開く	生徒が課題に対して視野を広げたり、考えを深めたりできよう、カリキュラムマネジメントを進め、地域のエキスパートとの連携（授業の伴走等）や地域の方々とのかわりに向かうための支援を行う。 ・雲南分教室教員を対象とした探究的な学びに関するアンケートの回答「できた」「概ねできた」の割合。 *『生徒が課題に対して視野を広げたり、考えを深めたりできよう、カリキュラムマネジメントを進め、地域のエキスパートとの連携や地域の方々とのかわりに向かうための支援ができたか。』	85%以上	100%	A	○課題解決の方法が生徒それぞれで分かれたり、アプローチの仕方が異なったりし、個の学びと集団の学びのつながりを意識した活動展開が難しい場面があった。 ●生徒につけてほしい力や有効な支援・指導方法など、さらに効果的に生徒情報を共有していく。	A	・地域との関りを意識した学校づくり、授業づくりに取り組みされていた。 個の学びと集団の学びのつながりを反省しより効果的な方策を検討されていた。	
みらい分教室	地域と関わる活動の中で、これまでに学んだことや複数の教科で学んだことを活用しながら探究的な学びを推進する。 #探究的な学びの推進	複数の教科の学びをつなげて考えるなど児童生徒の探究的な姿を引き出せるように、各学年担任と教科担当での話し合いを重ね検討する。		年間5回以上実施	100%	A	○教員間では教科関連表や話し合いによって教科間の関連を意識することができたが、児童・生徒へは伝わりにくかった。 ●既習事項や教科を超えてつながりのある学習内容については、伝え方の工夫や日常生活への落とし込み方の工夫が必要のため今後もカリキュラムマネジメントの検討を継続する。	A	・学年、教科間での教員連携、話し合いや研究会を行い授業作りに取り組みされた。また今後の教科や授業作りに生かそうとしていた。
総務部	教職員・児童生徒の災害時の危機管理意識や安全に対する意識を高めるような避難訓練を実施する。 #危機管理体制の確認	教職員が危機管理体制を再確認したり、児童生徒が自ら安全について考えたりできるように、災害時の様々な状況を想定した避難訓練の見直しを図ったり、事前・事後学習の教材提供をしたりする。	80%以上	98%	A	○火災時の感知器の情報収集手段や現場の状況確認、地震時の安全確認の報告など、災害時の教員の初動について、職員全体で確認できるとよい。 ●教員の学校安全研修の実施 ●縦割り学習時や休み時間や想定した訓練を計画し、児童生徒の把握や報告体制の在り方について検討していく。	A	・総務部として学校全体で様々な災害等の危機管理に備えていた。	
教務部	児童・生徒のよさを引き出す探究的な学びの充実を図る。 #一人ひとりのよさ	児童・生徒のよさを引き出す探究的な学びに計画的に取り組めるよう、重点テーマや各学部、分教室の重点目標を意識しやすい学部、分教室、学級経営案様式の作成や説明を行い、取り組みについて振り返る機会の設定をする。	80%以上	94%	A	○今年度、学部・分教室経営案の新様式を作成し、学級経営案とつながりを持たせながら重点目標を意識して学級経営、学習指導に取り組めるようにした。経営案作成について一部、記入手順や内容についての確認が必要な部分があった。 ●来年度に向けて様式、作成についての検討を行い手引きの見直しを行う。	A	・統一の学級経営案様式を作成するなど学級経営に活かされた。今後も統一書式を磨き上げ児童生徒の学びに活かされたい。	
生徒指導部	積極的な生徒指導や児童生徒の発達段階に応じて考える場面を設定した指導が実践できるよう支援をする。 #地域で生きる人になる #児童生徒の主体的な学びの充実 #積極的な生徒指導	学校全体で問題行動等の未然防止に向けた予防的な指導や相談、児童生徒の成長を促す生徒指導を実践できるよう生徒指導提要や指導の方針等を職員会や学部会で示していく。（学期に2回）	80%以上	87%	A	○職員会等の機会に定期的にいじめ防止委員会の報告や生徒指導にかかわる課題について報告し、共有ができた。 ●いじめ防止委員会の報告を主としたため、発信の内容がいじめについてが多くなってしまい、生徒指導提要の他項目についても発信できるとより良かった。	A	・職員会等により生徒指導情報を共有し、いじめや問題行動等の未然防止に努められていた。	
寮務G	自分の良さに気づき、それを生かしながら日常生活や地域交流などで人と関わる力を育む。 #地域で生きる力の育成 #自分の可能性を切り開くことに意欲がもてる生徒	学年会や月1回の研修日で具体的な支援方法を探ったり、評価したりし、自分の良さに気づけるような個人面談を定期的に行う。	年6回以上	6回 3学期に2回実施予定	A	・毎月の研修日に日常の様子や有効だった支援、生徒の変容について話し合うことができた。また個人面談や余暇日を通して頑張る姿や気になる様子を学年会や引き継ぎで共有し、効果的な支援を行事や日常生活の中に取り入れることができた。 ・生徒が自分の良さに気付いて自信をもって人と関わる姿が見えた。 ○面談の内容や項目などの検討や、面談内容の活用工夫。 ●生徒それぞれの適した役割を見つけ、人のために役立ったり、達成感ももてたりするような支援の工夫。	A	・個人面談を行いその結果を教員間で共有し効果的な支援に活かしていた。今後も引き続き児童生徒の日常生活に寄り添いながら業務量とのバランスを保っていただきたい。	
進路支援部	進路に関する情報発信の充実を図り、本校の取組を地域の方に知ってもらう。 #情報発信 #地域で生きる人になる	関係機関等に向けて、パンフレット、名刺等（ホームページのQRコード入り）を配布する。	年間200枚以上 *各学部、分教室合わせて	422枚 (1/28現在)	A	○各学部、分教室合わせてパンフレット、名刺を400枚以上配布することができた。 ●配布する際は、ホームページのQRコードについての説明も含めて手渡すよかった。記事の更新については、掲載できない記事もあったので分掌会等で今後も確認していきたい。	A	・進路に関する情報発信のため名刺の積極的な配布に努め、併せて学校のホームページ閲覧による周知に取り組みされていた。今後も配慮しながら学校行事等を掲載し開かれた学校作りに取り組みされた。	
研修部	校内研究の推進を通して児童生徒の「探究的な学び方」を実現しやすいカリキュラム・マネジメント上の課題を検討する。 #課題を解決する力	持続可能な探究シート（研究ツール）を活用して、授業づくりや校内研究を進めていく。	80%以上	81%	A	○「探究的な学び方」のイメージを3年間かけて、教職員である程度共有できた。しかし、実現するための時間設定、個に応じた姿の検討といった、次のステップの課題が出てきている。 ●研究の進め方として、研究と日常が乖離しにくい研究のやり方を提案し、研究を進めることの利点や汎用性を教員が実感できる取組を次年度は目指したい。	A	・研究ツールの活用により授業作りや探究的な学びの共有に取り組みされた。 ・昨年「探究的な学び方」についての課題も挙げられる中で、生徒さんたちに伴走しつつ、導いたりカづけたりすることは、先生方のご苦労も大きいことと拝察している。「個に応じた姿の検討」が課題とのことだが、これは広い意味での「インクルーシブな教育」を課題の一つとする日本の教育において、いづれが先駆的なケースとなり得ることも意味していると思う。特別支援学校が、その枠を超えていく（社会がそう捉える）ところに、日本の教育の新たな地平が開かれると期待している。	
相談支援部	学校見学・体験を通じて、参加者（幼児児童生徒・保護者・引率者）に、わかりやすい情報や体験活動を提供する。 #センター的機能の充実 #切れ目ない支援のための連携	多様性に応じた、わかりやすいスライド資料作成や、入学後の学校生活をイメージしやすい見学内容・体験活動を提供する。	80%以上	約97% 参加総数749名 (1/28現在)	A	○アンケートからは概ね良い評価だった。「参考にならない」と答えたのは少数であり、高等部見学会や体験会に参加した生徒のみだった。各校の進路指導と本校の取組がつながっていないケースがあった。 ●CDが相談に応じたり、isyou特別支援教育研修会で、ニーズに応じた様々な取組を継続する。	A	・学校をより知っていただくための体験会や見学について工夫されておりアンケートの高評価に繋がっている。	

図書情報部	ICT機器・図書館の活用推進に繋がる情報の積極的な発信 #効果的なICT機器の活用と工夫 #学校図書館活用	校内向けに、ICTまたは図書館活用ミニ研修・ICTに関する通信発行・図書館情報メールの送信等を行う。	・研修実施・ICT通信発行・図書館情報メール送信回数	17回以上 (本校図書情報部員全員が1回以上、分教室1回以上)	23回	A	○活用推進に繋がるように、発信方法・内容を工夫すること。 ●情報・機器は日々アップデートされていくため、必要な情報がうまく校内へ浸透するよう、引き続き情報発信は必要だと考える。	A	・ICTの活用の推進、図書に触れる取り組みが行われていた。
保健部	安全点検後の処理をスムーズに行い、安心安全な教育環境づくりに努める。 #安心安全	安全点検未実施者への呼びかけをしたり、安全点検フォームの見直しと集計方法の見直しを実施の度に行ない、次回に改善したものを使ったりして、集計と其後の報告にかかる時間を短縮させる。	・提出メ切り日から一か月以内に報告できたか。	3回中2回	100%	A	○Googleフォームを利用した安全点検や集計を始めて1年目で、大きな問題はなかったが、不具合が起きることがあった。 ●不具合のあった事例と対応策について担当間で共有し、注意事項を周知したり、都度対応したりできるようにする。	A	・安全点検の徹底に取り組まれていた。
地域連携推進部	地域と連携した学習について、各学部・分教室等の取り組みを校内に情報発信し、地域とのつながりの『いいね』を増やしたり共有したりする。 #地域との連携・協働 #探究的な学び	職員会議で年3回(8月、11月、1月末)、地域と連携した取り組みについて、校内の教職員に対し情報発信をする。	・具体的方策に挙げた内容について、計画的に校内に情報発信することができたか。	年3回報告	3回	A	○計画的に情報発信ができた一方、年間3回の情報発信ということ、発信の工夫が必要だった。 ●これまでつながりのあった連携先の一覧を全校で共有できるとよかった。 ●地域連携推進部として、学習活動(総探、校外学習等)との関連の整理、見直し	A	・地域連携の情報発信の専門部として取り組まれていた。 ・探究学習のナビゲーターとして関わらせていただくことで、さまざまな地域資源とのつながりが生まれたことを実感した。昨年度の探究テーマ(チーム)が今年度の校外での発表(「いずも多文化ひろば」)につながったり、昨年度関係ができた外部資源を今年度も活用されたりするケースが見られ、大変嬉しく思った。現在、出雲市の社会教育にも関わらせていただいているが、児童・生徒さんたちと市民との関わりは市民にとっての学びの場でもあるので、地域連携を「双方向的な学習機会」として整理・再構築することも一案と感じた。
事務部	就学奨励費の早期支弁	就学奨励費の早期支弁に必要な支弁区分の決定にあたり、保護者の個人番号(マイナンバー)の利用を促進することで区分の早期決定につなげるとともに事務処理の簡素化を図る。	・11月末日時点の支弁区分決定率	80%以上	100%	A	○マイナンバーを利用する場合、世帯全員のマイナンバーの提出及び利用の同意を得る必要があり、時間を要することがあった。 ●引き続き、丁寧に説明しマイナンバーの利用促進を図り、区分の早期決定につなげる。	A	・就学奨励費の早期支払いのためマイナンバーカード活用を保護者に丁寧に説明していた。

学校関係者評価委員 (いずよう魅力化協議会委員) 総評	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習で関わる中で、生徒の変容を感じた。学習のゴールまで、想定通りにいかなかった時のジレンマを生かしていく学びを期待する。 ・学校側の自己評価は高いが、教職員の残業時間はどうなっているか心配。 ・児童生徒の様子を知る機会をもっと作ってほしい。 ・行事をイベントとしてとらえるのではなく、日常の一場面に関われる時間として、積極的に作ることができればと思っている。 ・次年度、探究的な学びを深める、とあったが、深めれば、また広がる。人とのつながりも広がる。生徒たちが主体的に活動できる場や仕掛けづくりをしてほしい。学年に応じた段階的な関わりを広げながら深め、さらなる広がりへとつなげてほしい。 ・教職員数も多く、一つの組織として成り立たせていくことの大変さがあると思う。大胆な働き方改革を発信していくことが重要。 ・高等部は、神西地区のコミュニティセンターとつながっているいろいろな活動ができ、助かっている。小学部も昔遊びのつながりが継続しているが、地域の高齢化が進み、後継者不足が課題となっている。 ・学校で経験したこと、つけた力を社会で生きるために活かしてほしい。そんな社会になってほしい。 ・来年度も、地域との協働的な学習に協力したい。DX化も大切だが、人と人が関わる時間も大切にしてほしい。
校長より	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドデザインにあるように、一人一人が輝く虹がかかる学校になるよう、様々な取組を地域の方々のご協力を得ながら進めてきた。来年度は、これまで地域へと広げてきた学習を、より深く、持続的な関わりができるような学習にしていくよう努めたい。 ・児童生徒数の増加、人材不足の課題もあるため、働き方改革への取組もより一層求められる。教育の質を保ち、学習活動の充実を図る。 ・1月6日の地震を経験し、改めて防災について意識した。日々の危機管理を行い、安心安全な学校を目指す。 ・防災について、来年度のいずよう魅力化協議会でご意見を伺いたい。